



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



巻頭言

歯学部長 宮崎 隆

今年の夏は台風や集中豪雨に日本全国が被災し、改めて自然の脅威を実感させられました。本歯学部にとっては、学生が課外活動で活躍し、また、文部科学省へ申請していた事業の採択が発表され、将来に向けて実りある夏であったと感じています。



恒例のオールデンタル(第46回全日本歯科学生総合体育大会)夏期大会は、日本歯科大学新潟生命歯学部の事務主管で8月上旬に開催されました。本学は13種目に参加し、冬期大会との総合成績で第10位でした。これは過去10年間で最も良い成績でした。準優勝の準硬式野球部、3位の卓球部ほか入賞した各クラブ部員の健闘を讃えたいと思います。

こちらも恒例の学生・クリニシャン・リサーチ・プログラム(全国の歯科大学・歯学部学生の代表による英語による研究発表大会)が、8月20日に日本歯科医師会館で開催されました。20回目の記念大会となる今回は、全国28校からの代表学生が参加し、白熱したプレゼンテーションを行いました。そして、本学代表の道家 碧さん(6年生)が見事優勝し、10月9日から米国で開催される国際大会に日本代表として出場することになりました。本学学生の優勝は初めてであり、大変に名誉なことです。

以前から紹介しているように、現在、本歯学部は文部科学省の大学間連携共同教育推進事業に選定され、「ITを活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成」プロジェクトを、平成24年から5年間、北海道医療大学、岩手医科大学ならびに地域歯科医師会との連携で進めています。新しい教材の作成を行い、授業に活用しています。その成果をベースに、今年の11月には3年生に新しい地域連携歯科医療実習を実施する予定です。

今年度は文部科学省から大型事業として、新規に課題解決型高度医療人材養成プログラムの募集がありました。本歯学部は岡山大学を幹事校として全国11大学と連携して、「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革」という事業名で申請し、採択されました。前述のプロジェクトを含めて、教育改革に志を同じくする大学と連携して、超高齢社会の国民の健康に貢

献できる歯科医療人の教育をさらに推進します。また、同じ課題解決型高度医療人材養成プログラムに本学薬学部が単独で、「大学と地域で育てるホームファーマシスト」という事業名で採択されました。これまでの4学部連携のチーム医療教育を卒後に継続するプロジェクトであり、歯学部も参画してオール昭和の体制で在宅チーム医療教育を推進する予定です。

今後も学生が課外活動を含めて、学部連携および地域連携の中で、多くのことにチャレンジして成長できるように関係者のご支援を宜しくお願い申し上げます。

昭和大学歯学部と山梨県歯科医師会との教育に関する協定書を締結しました

歯学教育学部門 片岡 竜太

8月21日に山梨県歯科医師会と「歯学部学生教育に関する協定書」を締結し、富士吉田校舎にて調印式が行われました。山梨県歯科医師会からは井出歯科医師会長を始め5人の役員ならびに本実習の立ち上げに尽力していただいた渡辺和俊先生(6回生)が出席し、昭和大学からは宮崎学部長、上條学生部長を始め3名の教員、同窓会を代表して長田英治先生(5回生)と事務職員が出席しました。本調印式に関する記事が翌日の山梨日日新聞に掲載されました。



平成21年から山梨県歯科医師会の協力の下、1年次の歯科診療所体験実習を必修科目として実施しています。富士吉田地区と甲府地区の歯科診療所約50施設の先生方に協力していただき、診療所で一日体験する実習を行っています。学生のポートフォリオ所見から、歯科診療所で働く先生方の背中を見て、学生は歯科医師になる動機を高め、コミュニケーションの重要性に気づいている様子がうかがえます。年に1回、実習に協力していただいている歯科診療所の先生方やスタッフの皆様と実習に関する意見交換会を開催しています。

今年からは、旗の台校舎・洗足校舎近隣の歯科医師会の協力を得て、3年生が参加する「地域連携歯科医療実習II」を必修化します。本学は歯科医師会と良好な関係を構築して、地域歯科医療に貢献できる歯科医師を養成するよう努力を続けます。

昭和大学歯科病院臨床研修歯科医採用試験が実施されました

総合診療歯科学部門 長谷川篤司

平成27年度臨床研修歯科医の採用試験が7月19日(土)に旗の台校舎5号館と4号館を使用して実施されました。試験の課題としては、学識試験と面接試験が課されました。本学では、研修医が確実に診療参加することを念頭に、1つの診療部署で長期間(6か月または12か月)じっくりと研修できるプログラムになっています。また同時に、重要な必修コース(全身管理研修、口腔ケア研修、画像診断研修)を短期で効率よくラウンドできることを特徴としています。募集定員はプログラムA(院内6か月+学外6か月)40名、プログラムB(院内2診療科で6か月ずつ)30名、プログラムC(院内1診療科で12か月)20名、プログラムD(学内病院歯科6か月+院内6か月)10名となっております。本年は24大学から264名(新卒191名、既卒73)の受験生があり、このうち本学出身者は119名(新卒95名、既卒24名)でした。



歯学部入試説明会

入試常任委員 美島健二

9月20日(土)に歯学部入試説明会が旗の台キャンパスで開催されました。参加人数は、68組、1



01名と大変多くの受験生とそのご父兄に出席頂き、本学への注目度が昨年同様に高いことを感じました。説明会の内容は、まず初めに、歯学部入試常任委員が、本年度の入学試験の概要について説明しました。特に、本年度から高校のカリキュラムが新課程に移行するため、新・旧試験出題範囲についての解説をしました。また、昨年度同様、本年度も引き続き行われる他学部との併願や本年度から新たに施行される編入Ⅱ期についての概要を説明しました。さらに、学費面における変更点として、本年度から施行される、一定条件を満たせば5、6年次の学費が免除される歯学部特別奨学金制度について説明を行い、参加者は熱心に耳を傾けていました。引き続き、本入試説明

会の中心でもある、駿台予備学校講師による入試問題5教科(英語40分、数学40分、物理、化学、生物各25分)全てを対象に、問題の難易度を含め、かなり詳細な解説が行われました。入試常任委員による個別相談(12組)も行われましたが、予備校講師による入試問題の解説はとても好評で、実りの多い説明会だったと思いました。

学位論文中間報告会が実施されました

大学院運営委員長 井上富雄

平成26年度に学位申請が予定される16名の歯学研究科博士課程の大学院生を対象に、「学位論文中間報告会」が開催されました。本報告会は、学位論文の作成過程をより円滑に進めることを目的に、学位申請予定者、主指導教員、歯学研究科教授会メンバー3名からなる論文指導教員の合計5名(歯学研究科以外の本学大学院のメンバーを論文指導教員に加える場合は、合計6名)で、学位論文の研究の実施状況の確認や検討を行うものです。今年度が初めての実施ですが、各報告会において有意義な議論がなされ、その結果が学位論文中間報告会報告書にまとめられ、大学院運営委員会に提出されました。来年度は、中間報告会実施の対象者および実施時期についてさらに検討を加えていく予定です。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

PBL ファシリテーター養成・シナリオ作成ワークショップに参加しました

口腔リハビリテーション医学部門 横山 薫

平成26年8月26日~27日に富士吉田校舎にてPBL ファシリテーター養成・シナリオ作成ワークショップが開催されました。ファシリテーター養成チームでは学生と同様にPBLの体験を通じてファシリテーターの役割を学びました。シナリオ作成チームでは、これまでの学部連携PBLのシナリオやファシリテーターガイドの見直し、PBL実施時期の見直し等を討議しました。また、今後増加することが予想される地域医療に対応したPBLの実施についても平成29年度から実施する予定で具体的な検討がなされました。PBLの成功はシナリオとファシリテーターにかかっていると言っても過言ではありません。このようなワークショップを通じてより一層磨きをかけて行きたいと思っております。



スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム日本代表選抜大会で優勝しました

D6 道家 碧

この度、SCRP大会にて優勝できましたこと、非常に光栄に思っております。夏休みの間、毎日のように研究室に通って深町先生に手伝っていただきながら研究してまいりました。



私は昔から微生物に興味があり、研究をしてみたいと常々思っていました。歯周病原細菌の産生するヌクレアーゼの解析の研究をして参りましたが、今の所は歯科医療として応用できるような段階ではありません。しかし、将来私の研究を基盤として、歯科医療の発展につながっていければ幸甚です。このような研究の機会を与えてくださった桑田教授並びに歯学部、微生物学研究室の先生方、私を支えてくださった家族、友人たちには心から感謝しております。

10月にはSCRP世界大会の場である、アメリカ歯科医師会(ADA)での発表があります。いままでアメリカには数回短期留学をさせていただきましたが、このような研究を目的とした世界規模の学会に顔を出すのは初めてです。この機会に世界各国の歯科医師の卵たちと親睦を深め、これからの私の生涯にわたる歯科医師人生の原動力として行きたいと思えます。また、今回日本代表という形で世界大会に出させていただくにあたって、昭和大学の一員として、昭和大学の名に恥じぬよう堂々と胸を張って発表しに行きます。力不足であることは自覚しておりますが、どうぞ温かい目で見守っててください。

スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラムの研究指導を行いました

口腔微生物学講座 深町はるか

8月20日にスチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラムの日本代表選抜大会が開催されました。本学からは6年生の道家碧さんが研究テーマ「歯周病原性細菌の産生するヌクレアーゼの解析」の発表で基礎部門において優勝し、10月にアメリカ(サンアントニオ)で行われる世界大会で日本代表として発表することになりました。

今年度の本学の代表は、マルチドクタープログラムを選択している学部学生から選ばれました。道家さん

は大学代表として発表することが決まってからは春休み、夏休み、授業後に研究を行い、実験の待ち時間には国家試験勉強、と私も見習うべき態度でした。また、積極性、作業の丁寧さ、理解の深度、どれをとっても非常に素晴らしいものでした。私自身、このような基礎系の研究に興味を持った学生さんを指導する機会に恵まれたことを嬉しく思います。

最後になりましたが、この度の発表に際し、プレゼンテーションの練習にご助言ご指導いただきました多くの先生方にお礼申し上げますとともに、研究方法にご助言いただき、また実験に不可欠な新鮮な血液を提供していただきました口腔微生物学講座の先生方に感謝申し上げます。

第11回アジア口腔顎顔面学会で発表しました

顎顔面口腔外科学部門 近藤誠二

去る8月22-24日の期間中、中華人民共和国 西安で開催された第11回アジア口腔顎顔面学会に参加してきました。西安はご存知の如く、古くは中国古代の諸王朝の都となった長安です。現在は、国家歴史文化名城に指定され、世界各国からの観光客が多い都市です。



私は以前、上海に留学した経験があり、それ以来の訪中でした。現地の雰囲気は上海の活況溢れる状況よりは少し落ち着いた感がありましたが、街中ではやはり大型クレーンの設置があちこちのビルに見られ、現代中国の急激な経済発展の波が内陸部にも進んでいる様に見受けられました。当講座からは私の他、鎌谷講師も参加し、私は腺様嚢胞癌の血管新生因子発現に関する基礎研究を、鎌谷講師は顎変形症術後における鎮痛剤効果に関する臨床研究内容を発表しました。私の発表は幸いにも e-poster presentation award を受賞することができました。学会全体を通しての発表演題者は地元中国が最も多かったですが、アジア近隣国、遠く欧州、アフリカ圏からの参加もあり、非常に盛会でした。会場と滞在ホテルが離れていたため、連日タクシーでの移動でしたが、同一区間にもかかわらず、乗ったタクシーによって料金がまちまちでいいかげん…、いや大らかなお国柄でした。食事に関しては訪中直前に中国国内での食の安全に関する報道もあって、学会会場の懇親会とホテルですませてしまいました。海外ならではの日常のごまごまとした苦労も含めて有意義な経験を積ませて頂きました。

第9回アジア小児歯科学会で発表しました

小児成育歯科学講座 浅里 仁

アジア小児歯科学会は2年ごとの開催で、今年はシンガポールで8月22日、23日に開催されました。小児歯科学会が夏期に開催されることは珍しく、シンガポールの街は夏期休暇中のためか観光客で賑わっていました。参加した国と地域は9つで、招待講演が25題、ポスター発表が91



題、口頭発表が42題ありました。招待講演は、臨床や研究の最新のトピックについての講演があり、日本からは東北大学の福本教授が小児の齲蝕予防を目的としたS-PRGを含んだ新しい歯のコーティング材について講演されました。小児成育歯科学講座からは、窪野美乃先生、島田幸恵先生と浅里の3名が発表を行いました。ポスター発表では30分間のディスカッションタイムがあり、実りある討議が行われました。招待講演の香港大学のWei教授の“Prevention and Clinical Management of Early Childhood Caries”の講演は、減少傾向にある乳歯齲蝕の中でも、未だ問題となっている初期齲蝕についてのもので、今後の日本の小児歯科診療における方向性について考えさせられるものでした。次回の第10回アジア小児歯科学会記念大会は2年後の2016年に日本で開催されます。

オールデンタルで準優勝しました

D6 岩内洋太郎

準硬式野球部門は長崎市で開催されました。台風の影響で大会3日目が初戦でした。初戦の朝日大学戦は両者譲らず3-3の同点と決着がつかず大会規定によりジャンケン勝負に。9人中5人先勝で勝利というルールでこれも9人目までもつれ、見事3年塩谷がチョキで勝利し2回戦に。4日目は日程が押していたため2回戦と準決勝の2試合を行い、2回戦は徳島大学に10-1、準決勝は大阪歯科大学に11-2と猛暑の中の消耗戦を制して13年ぶりの決勝戦へ。決勝戦は九州大学に0-8で敗れ2度目の優勝はなりませんでしたが、とても思い出深い大会になりました。自分達は出場チーム中最少人数の10人で臨んだのですが、選手が試合に集中できるようマネージャー6人が試合前後の雑務、試合中のベンチサポートは勿論の事、洗濯も夜遅くまでしていただきました。ま

た遠いところ20人近くのOBOGさんが応援に駆けつけてくださりました。応援メッセージも沢山頂き、マネージャー、OBOGさん含め誰一人諦めなかったまさに全員野球。自分はこのD準でチームスポーツという準優勝以上に素晴らしい経験をする事ができました。皆さん応援有難うございました。これからのD準の応援もよろしくお願い致します。



認定医・専門医取得 広報委員長 中村雅典

歯科保存学会専門医:須田玲子

歯科保存学会認定医:小出容子,菅野真莉加

行事予定

広報委員長 中村雅典

- 10月1日(水):大学院秋季入学式
- 10月5日(日):富士吉田オープンキャンパス
- 10月10日~12日(金~日):旗が岡祭・いぶき祭
- 10月11日(土):4学部合同進学相談会
- 10月12日(日):ホームカミングデー
- 10月18日(土):父兄会秋季部会
- 10月21日(火):解剖慰霊祭
- 10月28日(火):歯科医師臨床研修マッチング結果発表

受賞

広報委員長 中村雅典

- ・日本歯科衛生学会第9回学術大会 学術論文賞・奨励賞 柴田由美(歯科衛生士)江東豊洲病院歯科・歯科口腔外科
- ・第11回アジア口腔顎顔面学会 e-poster presentation award 受賞 近藤誠二 顎顔面口腔外科学部門

編集後記

歯周病学講座 滝口 尚

夏の猛暑はいつのことやらと、虫の音もようやく繁くなり急に秋の深まりが増してまいりました。今年の今頃は2020年東京オリンピック・パラリンピック決定と私も興奮しながら、編集作業をしていたことが懐かしく思います。末筆ではございますが、お忙しい中、原稿を執筆して頂いた皆様には心より感謝申し上げます。